

畑で暮らす カーちゃん (2)



私が育てたカラスの赤ちゃん
IV

石下郁子

- 1、 目次
- 2、 カーちゃんの寝場所（19）
- 3、 親ガラスはどこに（20）
- 4、 カーちゃんが遠くなってしまった・上（21）
- 5、 カーちゃんが遠くなってしまった・下（22）
- 6、 カーちゃんどうしたの？（23）
- 7、 カーちゃんはどこに（24）

7月30日（土）

8時半過ぎ畑に。昨日食べ残した餌はきれいになくなっていましたが、カーちゃんが食べたかは不明。

カーちゃんはいつもの方角から鳴きながら飛んできました。

ねぎとじゃがいもの間の草をむしっていましたが、雨が降りそうだったので急いで持ってきたピラフを上げると少しだけ食べました。

肩に乗って甘えたり、自転車の前かごやハンドルを飛び移りながらで遊んでいましたが、雨の降りそうな気配を感じてか、北の方角に飛んで行きました

夕方、雨が上がってきたので5時半ちょっとすぎに畑に行くと、カーちゃんは待っていた様子。朝、食べ残したピラフはなくなっていて、持ってきたパンはあまり食べず、まもなく北の方角に飛んで行きました。どうやら生まれた周辺にねぐらを見つけた様子だとこの時は思い、安堵していました。

ところが辺りが暗くなりかけたころ、不意にガア、という声でしたのでびっくりしました。

私はその時まで、あとからあとから生えてくる草を夢中になって退治していました。

聞こえるはずのない声に驚いて振り向くと、なんとカーちゃんが畑にいて餌を捜しながら遠巻きに歩いているのです。

「なんだ一、カーちゃんは一、おともだちのところに行ったんじゃないの？」

情けなくなって思わず文句が口から出ました。

カーちゃんは少しは私の表情を読むのです。それでいいわけでもするようにグルグルだか、グーグーだか、わけのわからない言葉を発しています。私はすっかり泣きたい気分になっていました。

暗くなるのにこれからどうするつもりなんだろう、と思ってカーちゃんを見ていると、ほんのちょっと目を逸らした際に近くの木に飛び乗ってしまいました。

そこはいつもカーちゃんが止まりたがる木ですが、簡単に獣や肉食の鳥などに狙われてしまいそうな木なのです。断固阻止しなければなりません。

「カーちゃん、そこダメ、おいで」といいますがカーちゃんはその木に止まって眠りたいらしく「ねんね、ねんね」を繰り返し、動こうとしません。

これまで夕方になるといつも北の方角に飛んで行ったのは、寝る場所を見つけたからではなかったのか、と心底がっかりしました。

移動させようにも手が届かず、どうしようかと迷った挙句カーちゃんをそこに止まらせまいと、棒で何度もつついて移動させようとしていました。しかしほんの少し動くだけでまた同じような場所に止まってしまいます。

カーちゃんは自分の気に入った場所にいることを、どうして邪魔されるのか分からないまま、何かつぶやきながら次々に移動しますが、私も必死です。

とうとう止まっている枝を折り、次に移った枝も折りました。柔らかい木で手で簡単に折れて

しまうのです。

近くにいるハクビシンか、アライグマはトウモロコシに体の重みをかけて倒し、実をもぎ取ると聞いていました。その木の幹はトウモロコシのように簡単に折れはしませんが、今夜すぐ下に動物が集まってくるのは目に見えています。

その時目が見えなくなったカーちゃんは今までよりもっと恐ろしい思いをするに違いありません。カーちゃんが身を守れるのは、いつもの木の中だけなのです。

でも以前、そこで恐ろしい思いをしたカーちゃんには違う場所が安心に思えて、もっと危険な場所に落ちつこうとするのです。

二、三本の木を折るとカーちゃんはとうとう倉庫の屋根の上に飛んで行きました。

どうしてこんなことをされるのか不思議に思っているのが表情を見て分かります。じっとこちらを見ています。けれど「おいで」と呼ぶとすぐに飛んできて私の肩に止まりました。

私はそこで少し時間をつぶしてあたりが暗くなるのを待ちました。カーちゃんの目が見えなくなるまで。そしてすっかり暗くなってから、いつもの木の中にカーちゃんを入れました。

「カーちゃんごめんね、ねんねはここよ」と言いながら。

たまらなく切なく涙が出そうでした。

カーちゃんは、これまでねぐらを決めていたわけではなかったのです。

でも私が帰った後いつも畑に来ていたかというところではなく、その日は私が遅くまで畑にいたのを見かけてもう一度来てみた、という感じでした。

そう思えるのはカーちゃんの止まろうとした木は、動物が来ればひとたまりもない木だったからです。

アライグマかハクビシンかは畑のトウモロコシなどを狙うとき、枝に飛びついてぶら下がり枝を曲げて作物を取るそうです。カーちゃんの止まろうとしている木も簡単に折られてしまいそうな木だったのです。実際にそれを経験していないカーちゃんには私にどうして邪魔されるのかが分かりません。

その時から私の気分は晴れませんでした。

スタートに戻ったというより、もっと深刻な事態です。それは畑にも敵がいるということ。夜ハクビシンか何かが来るだけでなく、周辺に何となく猫の気配もあるのです。

近くでその姿を見かけたことが何度かありましたから。

猫は白っぽい野良猫でカーちゃんのことをなかつたら、明らかに同情してしまいそうな猫でした。

このことにも私の気分は晴れませんでした。そんなかわいそうな猫を敵と思わなければならないことが。

それでも餌を置くとき猫に見つからないようにふたをかぶせたりしましたが、それは同時にカーちゃんが餌にありつけないことを示しており頭が痛い事でした。いちばんいいのは畑に行ったときカーちゃんに餌を食べさせあとはきれいに持ってきてしまうことですが、それがなかなかうまくいきません。

7月31日(日)

朝、夫が畑に行くというので餌を持って行ってもらいました。

カーちゃんは畑の横の駐車場の宅配便のトラックの上に止まっていて、そばに来て回りを歩いたり、自転車に止まったりしていたそうです。

9時半ごろ《一緒に帰りたい様子だったが、振り払ってきた》と夫は言っていました。昨日のピラフはなくなっていたそうです。

夕方は雨が降っていたので畑には歩いていきました。

この日はカーちゃんが気に入ってよく遊んでいた、段違いのスチールとプラスチック製の花台を止まり木用に持って行きました。

カーちゃんは畑にはもう来ていて、ピラフはなくなっていました。誰が食べたかは不明です。

持って行ったパンはあまり食べず、スイカの皮のところはいくらか食べました。

暗くなって、例の不安定な木にこの時も止まったので移動させようとする、「ねんね、ねんね」といいながら逃げようとします。パンを見せて呼びよせ、いつものように茂った木の中に入れました。

木の中に長い棒を入れてやったので、足場が安定し落ちついてくれました。

木の根元にヒイラギ南天を広げ帰って来ました。

去年、日記に書くのを忘れたのですが、カーちゃんを畑に連れて行った直後、夜行性の動物が畑に来るのが分かったとき、カーちゃんを止まらせる木の周りに動物が近づかないために何か障害物を置くことを考えました。

我が家の東側の物置のそばにヒイラギ南天があり、横に倒れて歩くとき足にぶつかって痛いと思うことがありました。

動物を近づかせないため、とげのあるものを捜していた私は、そのヒイラギ南天に目を付けました。

また以前飼っていた『ワンちゃん』という犬が、皮膚病で毛がないのでそのそばを通るときいつも痛そうにしていたことなどを思い出すと、その木を切ったほうが良いような気がしました。

それでのこぎりを持ってきて斜めに伸びていたヒイラギ南天を全部切り、畑に持って行き、カーちゃんの止まる木の周りを囲ったのです。それからは、夜、木の下にどんなに動物が集まろうとカーちゃんは安全だったのです。

あとで夫に「ヒイラギ南天は、魔除けなんだよ、少し残せばよかったのに」と言われましたが、今年の春根元からまた新しい芽が、今度は真っ直ぐに伸びて出てきてくれました。

8月1日（月）

この日は、朝、外出の予定があり畑には行けませんでした。

駐車場から車を出したとき、尾羽の広がったカラスが1羽、飛んできました。上空でガアッとひと声。確かめられませんでした。カーちゃんだったと思います。

そういえば、このごろカーちゃんの羽の傷みがひどいのが気になっていました。何かに攻撃されている、そんな気がしました。もしかしたら、親やきょうだいに？

人間にばかり慣れているカーちゃんに腹を立てて、肅清を？ ふとそんな疑いを持ちました。

このところカーちゃんの親や、きょうだいを見ていないのです。もちろん、限られた時間しか畑に行っていないのですから、他の時間に来ていたとすれば、見かけるわけがないのですが、やはり姿を見せてくれないと不安になります。

夕方畑に行くとき、大型電器店の屋上にいる、カラスの親子を見ました。

仲のよい親子の姿を見ると、カーちゃんが見捨てられたのではないかと心配になりました。

そのころ、当のカーちゃんは畑の手前の農家の屋根にいました。私の姿を見つけると飛んできましたが、昨日の餌は、ふたが重たく食べられなかった様子です。

その餌を少し食べ、少し遊んでからまたどこかに飛んで行きましたが、暗くなる頃また帰ってきて、いつもの細い木に止まりました。その日は心なしか私の誘導を待っている気がしました。

名前を呼ぶとすぐ飛んできておとなしく、いつもの木の中に入っていました。まだあたりが明るかったので、木から出たり入ったりしていましたが、やがて中に落ち着きおとなしくなりました。

8月2日（火）

毎日二回、畑にカーちゃんの様子を見に行くのがだんだん大変になり、夕方だけ様子を見に行くことにしました。

この日は5時半過ぎ、畑に行くとき餌を置いておく所にて、私が行くと飛んできました。

昨日あげたスイカの皮を薄くなるまで食べていました。せつなくなりました。

卵焼き、おじや、食パンを持って行きましたが、突然パンを口にくわえ、昨日いた農家の屋根のところに持って行ってしまいました。まもなく帰ってきて、空腹だったのか残りのものをほとんど食べました。

相変わらず私の周りや自転車、あと畑の中をうろうろしたり、ほかに飛んで行ったりもしています。以前はこれでねぐらに帰ったものと思っていましたが、そうでないことが分かっていたので、待っていると間もなく帰ってきて、例の細い枝に止まり、なぜか動こうとしません。

木の根元に動物のものらしい足あとがあって、昨夜怖い思いをしたのだと思いました。

やはり全力で阻止し、倉庫の屋根に飛んで行ったカーちゃんを呼び、花台、私の頭、肩と移動させ、茂った木のところに連れて行き中に入れました。

かわいそうそうですが、ここより安全な場所は今のところありません。

8月3日（水）

午後3時ごろ畑に行くときカーちゃんは待っていて、その後どこにも行こうとしません。

このところカーちゃんはずっとそんなふうでした。以前は私がいてもどこかに飛んで行ったり、帰って来たりを繰り返していましたが、昨日今日は私が畑にいる間はずっとそばにいます。
私が畑に行く回数を減らしたので、不安に感じているのかもしれませんが。

他のカラスの姿は、この日も見かけませんでした。

8月4日（木）

この日、8月4日から8日までの5日間、私の不手際や用事のために、カーちゃんを遠ざけてしまったような気がします。

4日の日は、午前中から午後2時ごろまで畑にいました。

暑い日でカーちゃんは日影に涼みながら、出たり入ったりして何となく私のそばにいました。こうしてカーちゃんを見られるのはうれしい事ですが、仲間とのことがどうしても気になります。2時ごろ、そんなカーちゃんを置いて畑を後にしました。夕方もう一度畑に来るつもりでした。

家に帰ると、玄関のところで電話の音が鳴り響いています。

27年前、当時15歳の息子さんを水難事故で亡くした友人が、この日はその命日でお墓参りに来たので、会いたいという電話でした。近くのファミリーレストランにいるといいます。

私も状態こそ違いますが、子供を亡くしているので私たちは親しいのです。

「今、畑から帰ってきたところなので、5分でシャワー浴びて行きます」

と言い、本当に5分後には自転車に乗って出かけていきました。途中車のマスターキーを拾いました。

その人と5時過ぎまで話して外に出ると、夕立があつたらしく地面がすっかり濡れていました。

仕事はできなくても畑にカーちゃんの様子を見に行くつもりでした。でも拾ってしまった車の鍵が気になり、警察に向かいました。リチウム電池のついたマスターキーだったのです。

家の前を素通りしたあと、ふとベランダを見上げると、布団が干したままになっていて、びしょ濡れになっています。

もう間に合わないと思って通り過ぎ、警察に行き鍵を届けました。

書類作りに手間取って警察を出たとき、もう辺りが暗くなっていました。そのまま畑に向かいました。カーちゃんはいません。もっと暗くなるまで待ってみましたがとうとうカーちゃんは来ませんでした。

家に帰ると留守電がいっぱい入っていました。布団を干したままの私に雨が降っていることを知らせてくれる別の友人からの電話でした。

布団は芯まで濡れているようでもうだめかと思うほどでしたが、下にバスタオルを置いて雨を吸い取り、陽にあてて何日か乾かしたら、また使えるようになりました。

8月5日（金）

朝畑に行くと、電線に並んで止まっている親ガラスを見ました。カーちゃんはいませんでした。

朝は私が来ないものとあきらめて来ないのだと思いましたが、不安だったのは親の方も子どもを見失っているということでした。

私が見かけないまでも、親はどこかでカーちゃんをつながり見守ってくれているように思えたのです。特にカーちゃんのおなかがいっぱいな時、誰かに餌をもらっているような気がしていました。

その日の午後は、带状疱疹の治療で午後3時に病院の皮膚科の予約が入っていました。

名前を呼ばれて診察室前の椅子に座ると、隣に若い女性が待っていました。

予約を入れていないのでさっきから待っている、ということでした。

なぜとはなしに話が合って、私はカラスの話を、その人は捨て猫を育てている話をしました。派遣で働いているのに、何十匹も捨て猫を拾い、1匹の猫の病院代に20万円以上かけたという話をしていました。

私も以前皮膚病で捨てられていた犬を拾い、あっという間に20万円くらい出費した経験があり、他人事とは思えませんでした。

私が診察室に呼ばれ、次にその人が呼ばれ、待合室で支払いのために座っていると間もなく診察を終えたその人が来ました。

その時、私の隣の席には別の人が座っていましたが、隣の人が立っていくと「来ちゃった」と言いながら彼女がそこに来て座りました。

仕事や家族の話などを聞きました。薬局へも一緒に行きそのあともいろいろ話をしました。住所を教え合って別れました。

カラスのことは、ずっと気になっていました。昨日、今日と続いて、本当は不安でした。でも今はこの人と話をした方がいいと思ったのです。

家に帰ってすぐ畑に行きました。カーちゃんは畑にいませんでしたが、50メートルくらい離れた電柱にカーちゃんのきょうだいの見張りガラスがいました。

見張りガラスがあきらめて帰ったあとも、すっかり暗くなるまで待ちましたが、カーちゃんは来ませんでした。

8月6日(土)

朝畑に行くと、カーちゃんは来ていましたが、昨日私が行かなかったことを怒ってなのかこの日はいたずらばかりされました。

肩に乗って頭や背中をさんざんつついた後は、収穫した野菜を散らかして反抗します。

茄子の花や小さい実をくちばしでもぎ取ったり、あちこちの野菜をかじって歩いたりするので

とてもカラスのすることとは思えません。

だめだめ、を連発してすっかり疲れてしまいました。

しばらくしてバイバイね、と言うと察してか、先回りして出口付近の金網に行き止まりましたが、後を追うこともなく見送っていました。

この日持って行ったもの。ちらしずし、パン、スイカの皮。カーちゃんはスイカの皮が好きなのです。実の方も上げてもいいのですがすぐに傷んでしまうので無理でした。

夕方、5時ごろ再び畑に行きましたが、カーちゃんは来ませんでした。

昨日私が行くのが遅くて会えなかったのが、今日はあきらめたのかと思いながら、ずいぶん遅くなるまで畑にいましたが、カーちゃんは来ませんでした。

朝、もっと優しくしてあげればよかったと後悔しました。

カーちゃんは夜、どこで寝ることにしたのか、畑に来ることはあきらめたようです。

元気でいればいいが、と心配でした。

カーちゃんが遠くなってしまった（22）

8月7日と8月8日

この2日間、実は家を空けて他県に行っていました。

予定外だったのですが、行くはずだった人が怪我をしまい、代わりに行くことになったのです。

夫がカラスに餌を上げてくれると言ったので出かける気になりました。

カーちゃんの餌は、2日分を前もって冷凍しておきました。

飲み水をペットボトルに入れて運ぶことも了解してもらいました。

これまで毎日、ペットボトル10本近くの水を畑に運んでいました。

飲み水はバケツに入れ、それまでバケツにあった水はたらいに入れ水浴び用にしていました。

たらいの水は畑にまきます。毎日これをしていました。

夫は親切なほうだと思いますが、生き物の世話についてはあまり信用できません。

以前、病気の犬を飼っていた時、やはり用事があって家を空けました。

私が出かけると分かるといつも大暴れする犬です。

夫にはよくよく頼んで出かけました。

出先から電話をかけると大丈夫だといいます。おとなしくしているとといいます。

翌日帰ってくると大丈夫なのではなく、鳴くこともできないほど弱りきっていたのです。

ごはんも食べないといってもらえず、寒い部屋で手当もしてもらえずすっかり状態が悪くなっていました。夫は犬が静かにしているので安心だと思ったようでした。

犬には寒い思いをさせ、自分は暖かい部屋で寝ていたのです。なんという人かと思いました。

今回のカラスの世話はその時より難しいので、こと細かな説明が必要でした。

冷凍の餌は行く前に完全に電子レンジで熱を加えること。（痛むから）。

冷蔵庫にあるスイカの皮も忘れないで。（畑で泥がつかないように気を付けて、ビニールの上に皮を下にしておくこと）。

夫は「難しい注文だ。間違うと怒られるから」などと言って、水の替え方、餌のやり方をメモに取っていました。

経過はお構いなしにしても、これでやるだけのことはやってくれると思いました。

8日の日の夕方、帰ってきて畑に行ってみました。

そんなに遅い時間でもなかったのに、カーちゃんには会えませんでした。

夜、木の茂みの中に嫌がるカーちゃんを置いて帰ったのはいつまでだったか、メモ書きによれば8月3日がその最後でしたが、このころ息子に子どもが生まれたり、娘の命日が近づいていたり、あわただしく過ごしてしまい確かな記憶がありません。

それぞれのことはみんな大切な出来事です。

でもカーちゃんに対する思いが薄れたわけではありませんでした。

私はいつもカーちゃんを木の中に寝かせるとき、娘が小学校1年の時ノートに書いていた感想文の1節を思い出していたものです。

仲間からはぐれた「ひめねずみ」が1匹だけで生きていく、という話でしたが、ひめねずみを案ずる娘の思いと、自分のそれとが重なるように思えたのです。

なかまからはぐれてどんどんいくと、いわのすきまにはいりこみました。そこで「す」をつくったのもかんしんです。

いちばんかわいそうだったのは、ゆきのあとのおおあめで、おうちがこわされてしまったところ
です。

「す」がみずでこわされてしまうから、はやくそとにでなければ、といっはしてそとにとび
だしましたひめねずみさんはどうなるのかしんぱいでした。でもぶじににげられてよかったです
。

すばこをみつけてよろこんで、もうだいじょうぶとあんしんしました。

「もうだいじょうぶとあんしんしました。」

私はいつも祈るような気持でその言葉を反芻し、カーちゃんを茂みに残して帰ったのでした

カーちゃんどうしたの？（23）

8月9日

朝9時半ごろ畑に行くと、カーちゃんは入口の金網のフェンスのところで私を待っていました。

姿を見るといつものように迎えに飛んできて、自転車の前かごのふちに乗りました。そして畑まで行き、いつもは前かごの中の餌を捜すのですが、私が昨日畑に来なかったというので、肩に止まりしきりに文句を言っていました。激しく攻撃するようなことはしませんでした。

まる二日間、間を空けられる形になって、少し弱気になっていたのかもしれませんが。

この日は時間帯もあってか日差しが強く畑仕事には閉口しました。

カーちゃんは水浴びのあと羽を乾かすと、肩に止まったり、私の周りをうろうろしたりしてしていましたが、いよいよ日差しが強くなると、少し前まで夜になると寝ていた木の中に入って涼んでいました。ちょうど木の茂みの一角に空間があって、周囲を見渡せるような場所があるのです。

カーちゃんはそこで羽づくろいをしながらこちらを見ていました。やがて私が帰ると分かって飛んできて自転車に飛び乗りましたが、フェンスのところであきらめ、さっきいた場所に戻って私を見送っていました。

10日

朝早く畑に行きましたがカーちゃんは来ていませんでした。

こうして畑に来ていた何日かの間に私はあることに気が付きました。

カーちゃんが畑に来る時間は、私の前日の時間に合わせていたのです。

カーちゃんが畑に来たとき、私がまだ来ていない日の翌日、カーちゃんは遅く来るのです。

私が先に畑に来ていてカーちゃんを待っていたような次の日は、カーちゃんは早く来るのです。

このことでは私の畑に来る時間が一定でなく、カーちゃんを悩ませていたようです。

他のカラスの姿はときどき見かけました。親ガラスはいつも電線にならんで止まり、静かにこちらの様子を見ています。もう一羽の見張りガラスは一羽だけで倉庫の屋根の上か、遠くの電柱に止まっています。

倉庫の屋根にいるときこちらから、声をかけると逃げて行ってしまいます。

この日、朝早くから畑にいたため、日が高くなって帰ろうとしたところ、カーちゃんが北の方から飛んできました。餌をあげ、水浴びをさせている間に、もう時間が来て帰ろうとすると、カーちゃんは早く帰りすぎるとでもいうようにしきりに文句を言っていました。

この日までカーちゃんの様子は以前と変わりませんでした。

カーちゃんは私が帰るとき、いつものように入口のフェンスに止まって私を見送っていました。

私はその時カーちゃんの羽がまだ乾ききっていないことがちょっと気になりました。

カーちゃんは私の見る限り、何かを警戒するというのをしません。自分を襲った猫が、そばに

きても悠々としています。いざとなれば飛びあがればいい、などと頭を働かせているはずもないのに、実際に猫が襲いかかってくれば飛び上がって難を逃れます。そしてまたぼうっとしているのです。

カーちゃんが怖がるのは上空から自分を心配して鳴いている親ときょうだいのカラスだけです。

こんなふうにはほほんとしていて、何かに襲われたらうまく逃げられるかしら、ふとそんな不安を感じました。

11日

10時ごろ畑に行くと、カーちゃんは隣の駐車場に止まっている大型トラックのタイヤ付近で遊んでいて、私を見かけて近寄ってきました。

パン、肉、卵焼きなどをあげました。

水浴びをし、羽を乾かしていると思ったら、まだ十分乾かないうちに、再びトラックのほうに行ってしまいました。

私が仕事をしている間もほとんど近寄らず、トラックの下にもぐったり、タイヤに上ったり下りたりしながらあそんでいます。

声をかけると、いつもならすぐ飛んでくるのにこの日はそばに来ないし返事もしませんでした。

ずっと駐車場から離れないのです。まるで何かから隠れてでもいるようでした。カーちゃんの身に何ごとかが起こったのではないかと不安になりました。

私が帰るときも、カーちゃんはそのを離れず、ただ動きだけを止めてこちらを見ていました。

この日、タイヤの上で遊んでいたカーちゃんの姿が、私が畑でカーちゃんを見た最後でした。

8月12日

この朝カーちゃんは畑に姿を見せませんでした。

夕方になってもう一度畑に行く時、大型電器店の近くを通り電線に止まった、カーちゃんによく似たカラスを見ました。鳴き声でそれと気づいたのです。でも名前を呼んでみましたが反応せず、カーちゃんかどうかは確認できませんでした。

もう畑には来ないような気がしました。夕方いつも夕焼け放送を目安に飛んでくることが多かったカーちゃんでしたが.....

この日の昼間、水浴びをしたらしい様子はありませんでしたが、餌には気が付かなかったのかそのままになっています。

私はいつも畑に行き、カーちゃんがまだ来ていないとき、カーちゃんが何かに襲われてしまったか、どこかにその羽は落ちていないかを見回すのが習慣になっていました。

倉庫の屋根の上の黒光りのするものは今もそのまま、カーちゃんではないと分かっている、何かそれを見ると胸騒ぎを覚えました。

以前猫に襲われた時プラプラしていた羽が抜けて、畑に落ちていたことはあります。カーちゃんはそれを不思議そうに見ていました。時々そばに来てきちんとたためないほど乱れた羽で飛んでくることがありました。

そんな時思わず、「カーちゃん、だれにやられたの？」などと聞いてしまうことがありました。いつもいつもその姿を見るまでは不安でした。

さっき電器店のところにいたカラスはきっとカーちゃんに違いがないという気がして、あまり時間をおかずに畑を出ました。そこに行ってみることにしました。

近くまで行くと電器店の屋上に十何羽ものカラスが羽を休めているのが見えました。これまでに気が付かなかったのか、始めてみる光景でした。

あの中にカーちゃんはあるだろうか、と思いながら自転車に乗って近づきました。

電器店の屋上のカラスは、三羽、四羽とあちこちから飛んで来るカラスが増えて、みるみるいっぱいになりました。

カラスは昼間水場などで過ごして、夕方自分のねぐらに帰るときにそこを中継点にしていたようです。

夕方の時間初めて畑に来なかったカーちゃんは、あの中に混じっているかもしれない。

私がほんのわずかだけそんな期待を持ったとき、電器店前の交差点前の電柱に、一羽だけにいるカラスが目に入りました。でもどうも大きさからみて大人のカラスのように見えます。

しかし遠くからは大きく見えたそのカラスは、真下から見あげると小さな子どものカラスです。しかも羽がボロボロになっています。カーちゃんに違いがないと思いました。

あたりは車の行き来が激しく鳴き声は聞こえてきません。車の騒音が少し途絶えたとき、聞こえないとは思いましたが思い切って名前を呼んでみましたが、カラスは心なしか反応したように見えたが、下には降りてきません。

夕方混雑時間帯で車がひっきりなしに通っていたのです。

カーちゃんが私のそばに来るのは、こちらが一人でいる時かごく限られた人しかいない時だけです。

私は交差点のわきで人目もかまわずずっと上を見上げていました。そのうちカラスは傷んだ羽を広げて、電器店の方に飛んで行ってしまいました。

しかし集団の中には入らず、そのまま方向を変えて北西の方角に飛んで行きました。それはカーちゃんが生まれた林の方角でしたが、屋根に隠れて最後まで確認することはできませんでした。

カーちゃんは畑で何かに襲われたのでしょうか。あんなふうには羽をボロボロにされて、よほど怖い思いをしたに違いありません。でも無事でいてくれてよかったと思いました。同時にカーちゃんもう、畑には来ないような気がしました。言いようもなくさびしかったけれど、無事でいてくれて本当によかったと思いました。

カーちゃんが畑で過ごしたのは、数えてみるとわずか22日の日数でした。でもカーちゃんも私もそれ以上の経験をしました。ハラハラドキドキの22日間でした。

もともと大自然の中で生活する生き物たちの1日とは、私たちが想像する以上に、過酷なものです。それは生きることとの闘いそのものだからです。動物の子どもは、そうした過酷な条件の中で生きていくための知恵と方法を、自分の親から学びます。

いつか大型電器店の屋上で、カーちゃんのきょうだいたちは、親から下降訓練を受けていました。ヨーヨーのように下に降りてはまた上がることを何度も繰り返していました。

その命がけともいえる訓練を、カーちゃんは親から受けることができませんでした。

だんだんに下に降りる飛び方を覚えたけれど、そのほかにもたくさん身に着けなければならないことがあるはずです。カーちゃんはそれを全部覚えてこれからも生きていけるだろうか、これが変わらない私の心配ごとでした。

私が育てたカラスの赤ちゃんの話

- I ウッドデッキにいたカラスの赤ちゃん
- II カラスのきょうだいたちがやってきた
- III 畑で暮らすカーちゃん
- IV 畑で暮らすカーちゃん (2)
- V 公園のカーちゃん
- VI 『夕焼、小焼の あかとんぼ』

畑で暮らすカーちゃん（２）

<http://p.booklog.jp/book/76178>

著者：石下郁子

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/thmo2535/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/76178>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/76178>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ